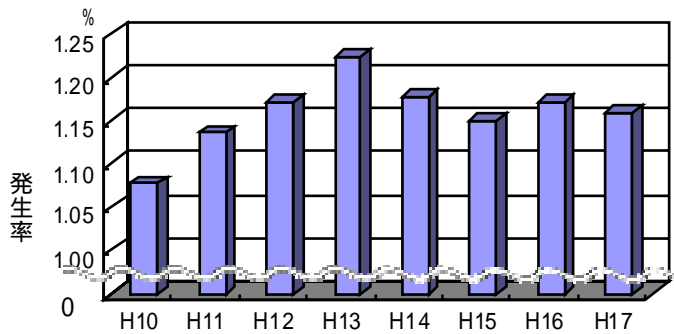


中 1 不登校の未然防止の在り方（2 年次）

- 「7つの視点」に立った小・中連携を通して -

宮城県の不登校の現状は...



小・中学校の不登校児童生徒発生率の推移（宮城県）

不登校発生率 1.16%

< 不登校数 >（平成 17 年度）

小学校 ... 4 2 2 人

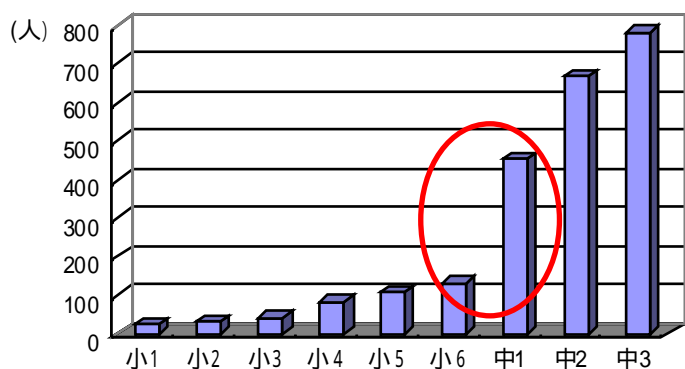
中学校 ... 1, 9 3 8 人

不登校発生率は、
近年横ばい状態が続いています！

なぜ、未然防止なの？

小・中学校ともに、約 3 割の児童生徒が再登校できるようになっています。しかし、約 7 割の不登校児童生徒は、不登校が継続しているのが現状です。不登校児童生徒への支援を行っていくことはもちろんですが、不登校を生まないよう環境を整えたり、児童生徒に困難を乗り越える力をつけさせたりする未然防止のための取組が重要です。

中 1 で小 6 の 3 倍以上に増加



不登校児童生徒の学年別数（平成17年度 宮城県）

小・中連携の重要性

中 1 で不登校になる生徒の 3 分の 2 は、小学校時代に不登校だったり、その兆候があったりします。小学校においては、中学校進学を意識した取組、中学校においては、小学校での指導の上に立った取組が必要になります。そして、何よりも児童生徒を小学校から中学校へと継続して見守っていくことが必要です。小・中学校がスクラムを組むことで不登校の未然防止が可能です。

意識・実態調査の実施

今年度は各校の不登校数と、不登校の未然防止に向けた各校の取組内容との関連を分析し、より効果的な不登校の未然防止対策を探るために意識・実態調査を実施しました。

【7つの視点】

- 1 人間関係づくり
- 2 学力の保障
- 3 小学 6 年生への進学情報の提供
- 4 小・中教員の相互理解
- 5 児童生徒についての情報の共有
- 6 保護者との連携
- 7 スクールカウンセラーとの連携

「いない」「減っている」
など

不登校問題を

克服してきている学校から学ぶ

調査対象：県内全小・中学校教員（仙台市を除く）

宮城県の実態は
どうなっているの？

克服してきている学校では

次のような取組を行っている学校のほとんどが、不登校の未然防止に効果的であったと回答しています。

- ・小・中の引継ぎの際、指導要録とは別に遅刻や早退状況等の記録も引継ぐ。
- ・小学6年生に中学校見学（体験）をさせる。

自由記述の分析からは

順位	キーワード	総合出現頻度(回)
1	保護者との連携	153
2	会議をもつ	101
3	共通理解	94
4	情報交換	93

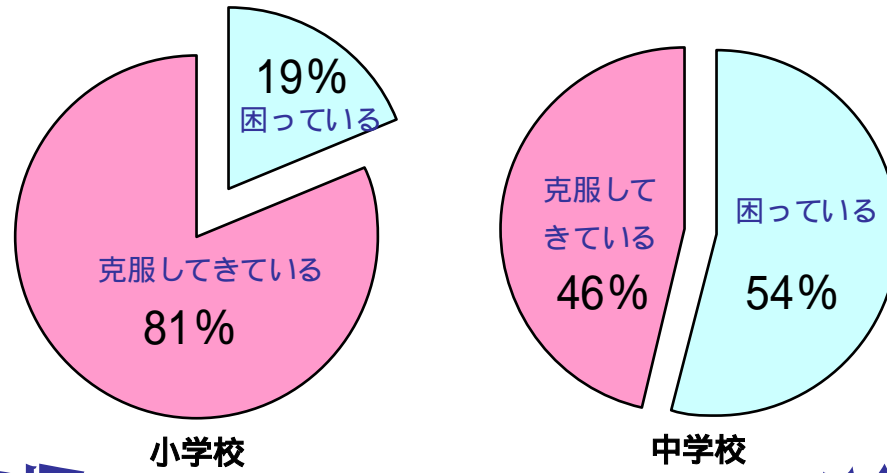
不登校未然防止で効果的であったと考えられる取組のキーワード

第1位

「保護者との連携」

(44項目のキーワードで分類)

Q. 学校全体の不登校数が過去2年間でどのように変化していますか？（平成16～17年度）



本県の小・中学校を2つに分類！

「増えている」
など

困っている
学校では

不登校増加の原因を次のようにとらえている傾向があります。

- ・児童生徒自身の経験や体験不足
- ・親子の関係が不十分

どんな体験をさせ、どう保護者と連携するか

聞き取り調査の結果を分類

(29校から)

児童生徒の抱える不安や悩みを把握するために行う取組。

心のノート「架け橋」 **対策1**

指導体制を学校組織としてのチームで対応していくために行う取組。

スモールステップでの対応 **対策2**

小学6年生の中学進学に向けた急激な環境の変化に対して、できるだけなだらかに移行させるために行う取組。

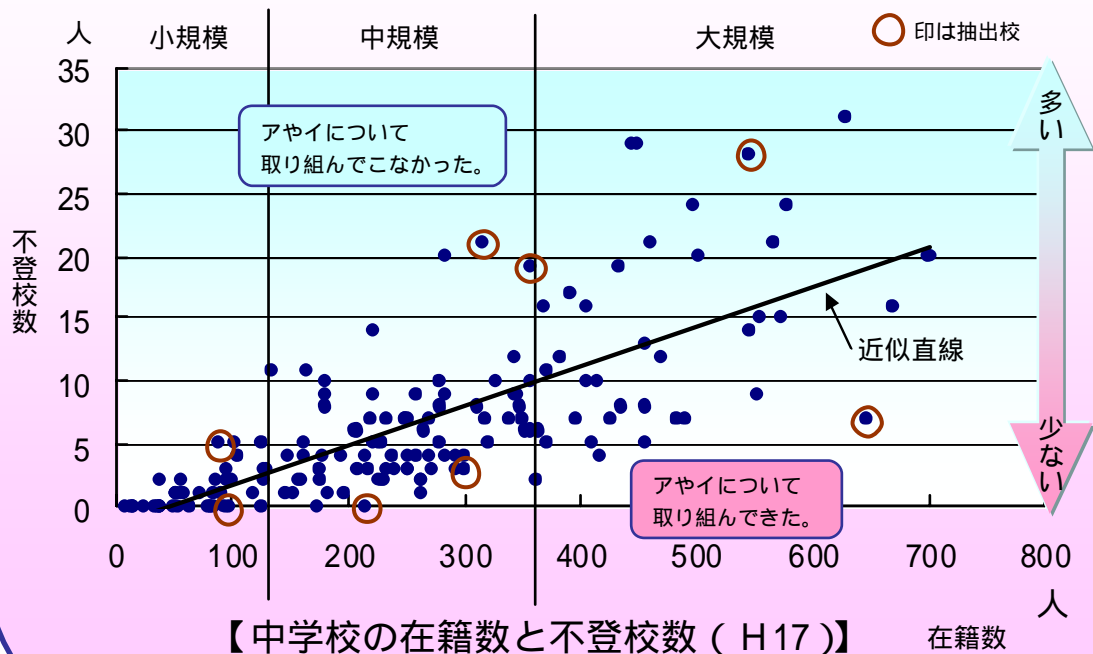
夏休み中学校体験入学 **対策3**

- ・視点3, 4, 5, 7を含め、取組のねらいで3つに分類。
- ・早期発見, 早期対応を目的に、適切と思われる時期に、計画的に実施していくべき「対策1～3」ととらえる。

抽出校の取組を比較

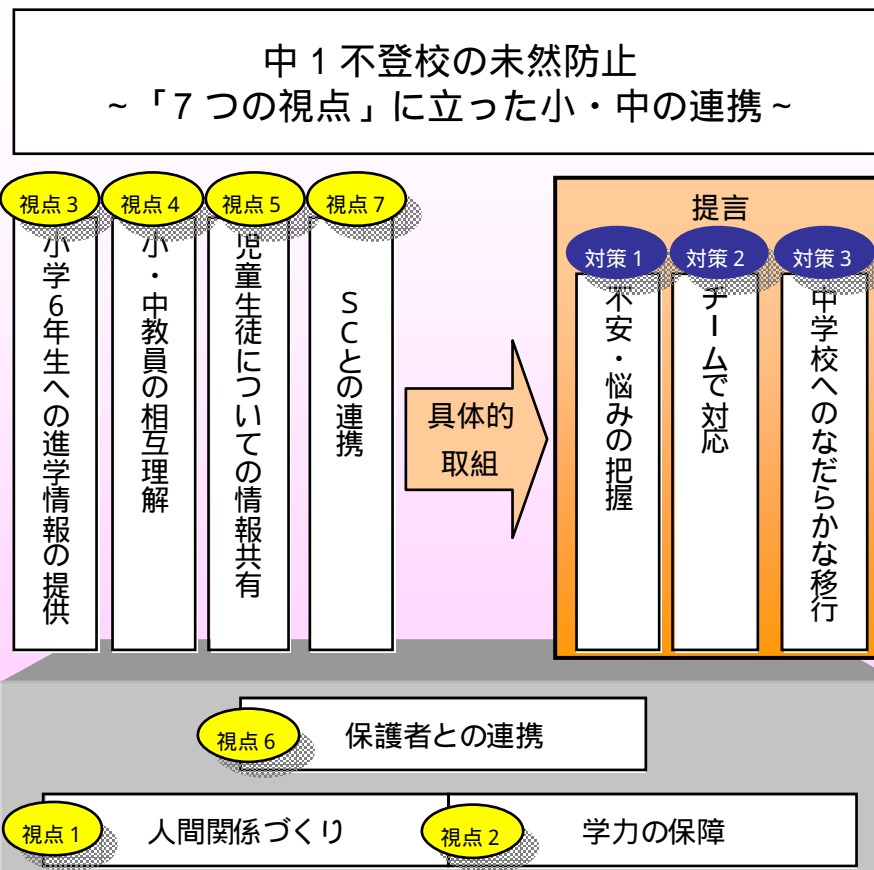
不登校数が少ない学校は...

- ア. 不安や悩みをノートやカードに記録させ、コメントしてきた。
- イ. 小・中学校相互に授業を公開し合い、教員が参観してきた。etc



【中学校の在籍数と不登校数（H17）】

新「7つの視点」の構想図



実際、
どんなことをすればいいの？

一つは、まず不安や悩みを児童生徒から早急に把握する工夫を行い(対策1)、それに基づき担任だけでなく、生徒指導担当者のリーダーシップにより、学年や養護教諭、SC、さらには地域の機関とも連携を図り(対策2)、積極的に不登校の未然防止に取り組むプランです。もう一つは、児童に中学校での生活について情報提供したり、中学校で行われている学習や生活、部活動等を体験させたりして、小学校から中学校になだらかに移行させるプラン(対策3)です。

対策1

「不安・悩みの把握」

記述による悩みの把握

- ・日常的なノート等による不安や悩みの記述
- ・上記への教師のコメント
- ・上記と日頃の児童生徒の観察から行う「様子チェック表」の活用

個別の話合い

- ・「受容」「支持」を中心とした面談
- ・「尊重」「傾聴」「共感」の姿勢での家庭訪問

対策2

「チームで対応」

小・中引継ぎ

- ・「早退、遅刻状況」を加えた引継ぎ
- ・個人記録を活用した指導の引継ぎ
- ・新学期開始後の柔軟な小・中の情報交換

小・中学校授業参観

- ・授業を参観する際の観点の明確化
- ・授業後の検討会における気になる児童生徒の情報交換
- ・小・中の相互理解に向けた、小・中双方での実施

対策3

「中学校への
なだらかな移行」

中学校見学体験会

- ・授業の見学・体験
- ・部活動の見学・体験
- ・中学校の先輩による中学校生活に関する話



モデルプランチェック表でチェックしてみませんか？

対策1～3をバランスよく実施しているかどうか診断するために「モデルプランチェック表」を活用してみませんか。本チェック表では、取組の有無を15項目でチェックすると共に、取組に対する教員の共通理解を重視し、0～3の度合いでチェックすることができます。本チェック表で、自校の取組を振り返ると共に、不足している部分を明らかにし、追加、計画し実施していくことができます。



宮城県教育研修センター

平成18年度 教育相談研究グループ
指導主事

専門研究員 栗原市立一迫小学校
女川町立女川第四中学校
石巻市立大街道小学校

教諭 白鳥 武
阿部 一彦
山中ひろみ

木村 裕一
松見 早苗

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>